

平成22年度対策の概要

1 県単事業（予算額 1, 250 千円）

(1) ニホンジカのモニタリング調査（継続）

- ・糞塊密度法により、県内 82 コースを調査し、個体数の増減を推定。

（剣山地区については、4 コース調査）

予算額 1, 250 千円

2 緊急地域雇用創出特別交付金事業（国捕事業）（予算額 30, 209 千円）

(1) 剣山山系におけるニホンジカ個体数調整業務

- ・三好市見ノ越に囲いわなを 4 基設置し、ニホンジカを捕獲した。（捕獲数 15 頭）

予算額 3, 957 千円（自然環境課執行）

(2) 剣山山系における希少植物植生調査、ニホンジカ生息状況調査及び食害防止対策事業

- ・平成 21 年度に樹木ガードを設置した樹木の回復状況の評価、食害防止対策が十分でない区域に樹木ガード、防鹿柵を追加して設置。

また、植生影響調査、生息密度調査を実施し、剣山山系のニホンジカ保護管理の基礎データを収集する。

予算額 3, 126 千円（西部総合県民局執行）

(3) 三嶺におけるニホンジカ食害防止業務（6 月補正、9 月補正を含む。）

- ・三嶺周辺での防鹿柵、樹木ガードの設置

→防鹿柵 2, 300 m（高知県側も含む。）

予算額 10, 084 千円（自然環境課執行）

(4) 三嶺におけるニホンジカ生息調査及び食害防止業務（9 月補正）

- ・三嶺周辺での生息密度調査、及び囲いわなの設置（2 基）など

予算額 4, 597 千円（自然環境課執行）

(5) ニホンジカ被害管理対策推進事業（9 月補正）

- ・西部圏域の森林でのニホンジカによる森林被害調査

予算額 5, 799 千円（西部総合県民局執行）

(6) ニホンジカ森林被害データ情報整備発信事業（9 月補正）

- ・剣山地域ニホンジカ被害対策協議会等での調査データをGISデータとして整備

予算額 2, 646 千円（西部総合県民局執行）

3 剣山地域ニホンジカ被害対策協議会の設置（事務局 西部総合県民局）

※設置年月日（平成22年5月27日）

・徳島県の関係市町、学識経験者、県（本庁、県民局関係部局等）、環境省、四国森林管理局、県内外の自然保護団体等で構成する協議会を設置し、ニホンジカの食害防除対策に係る関係機関の事業実施の調整や情報共有等を図った。

4 四国4県連携事業（予算額4,000千円）（事務局 香川県）

・安全な捕獲方法である囲いわなでの捕獲を試験実施し、技術の確立と普及を図る。

現在、捕獲実験を実施中。（囲いわな 2基設置）

予算額 4,000千円

平成23年度事業計画の概要

1 県単独事業（予算額37,185千円）

(1) ニホンジカのモニタリング調査（継続）

- ・糞塊密度法により、県内66コースを調査し、個体数の増減を推定。

（剣山地区については、4コース調査）

予算額 1,000千円

(2) 特定鳥獣保護管理捕獲促進プロジェクト事業（新規）（予算額36,185千円）

- ① 県下の11市町村鳥獣被害防止対策協議会が実施するニホンジカの個体数調整捕獲業務の実施。（春から秋にかけて、毎月、銃器による一斉捕獲を実施。）

予算額 33,185千円

- ② 新規狩猟者確保対策（講習会やイベントなどで新たな狩猟者を確保）

予算額 2,000千円

- ③ 特定鳥獣保護管理計画の策定（生息調査に基づくワーキング、検討会等の開催）

予算額 1,000千円

2 重点分野雇用創出事業（国補事業）（予算額41,789千円）

(1) 三嶺におけるニホンジカの生息調査及び食害防止業務

- ・三嶺登山道周辺におけるニホンジカの食害防止のための防鹿柵や樹木ガード等の設置、生息密度調査の実施及び囲いわな2基による試験捕獲の実施。

予算額 4,982千円（自然環境課執行）

(2) 剣山周辺地域におけるシカの食害対策事業（新規）

- ・剣山周辺地域にある五葉松、シコクシラベ等の高山植物を保護するため、周辺の被害状況を調査し、樹木ガードや防鹿柵を設置する。

予算額 6,066千円（自然環境課執行）

(3) 一の森周辺の県有林におけるシカの食害対策事業（新規）

- ・一の森周辺にある県有林地内の五葉松、シコクシラベ等を保護するため、被害の状況を調査し、必要な樹木ガードや防鹿柵を設置する。

予算額 4,289千円（南部総合県民局執行）

(4) 剣山地域ニホンジカ集中捕獲事業（新規）

・ 剣山地域でのニホンジカ被害管理として個体数調整を行い、当該地域における被害対策のみならず、県保護管理計画の適正な実施に繋げていく。

・ 誘引捕獲や効率の良い捕獲法（大規模捕獲柵等）の開発とその検証の実施。

予算額 13,712千円（西部総合県民局執行）

(5) ニホンジカ被害管理対策推進事業

・ 西部圏域の森林（人工林・天然林）におけるニホンジカの森林被害調査を行い当該圏域での適正な被害管理を支援するとともに、その進捗状況を基に県下全体でのモニタリング調査計画確立のためのモデルを策定する。

予算額 12,740千円（西部総合県民局執行）

3 剣山地域ニホンジカ被害対策協議会（事務局 西部総合県民局）

・ 徳島県の関係市町、学識経験者、県（本庁、県民局関係部局等）、環境省、四国森林管理局、県内外の自然保護団体等で構成する協議会において、ニホンジカの食害防除対策に係る効率的な展開を推進する。

4 四国4県連携事業（事務局 四国4県で協議）

・ 安全な捕獲方法である囲いわなでの捕獲を試験実施し、技術の確立と普及を図る。

・ 山岳地での囲いわな及び平野部（農業地や里山）での囲いわなによる捕獲試験（平成22年度の捕獲試験に引き続き、実施する。）

※各県の鳥獣対策部門と被害対策部門が、共同で試験や協議に参加する。

鳥獣被害対策の充実

(H22:166百万円 → H23:373百万円)

資料4

有害鳥獣による農作物被害、林業被害、自然植生被害の深刻化に対応し、関係団体との連携を強めると共に、有害鳥獣に対する防除や捕獲等の総合的な被害防止対策を強化する。

◀捕獲対策の推進▶急増するニホンジカへの対応

◇前回調査時(平成19年度)から、生息密度は2.4倍に
適正頭数での持続的な管理を図るため、捕獲頭数を従来より大幅に増やし年間3万頭とし、シカ被害の抜本的な解決を図る。

NEW 捕獲チームを編成

専門の捕獲チーム(6人×3チーム)が、平日(150日間)でも継続的に捕獲を行い、被害の深刻な地域の状況を抜本的に改善

【41,853千円】

NEW 市町村境・県境を越えた捕獲

効率的な捕獲を実現するため、市町村境や県境を越えた捕獲体制を整備(2百万円(定額)×15市町村)

【30,000千円】

狩猟期の個体数調整

わな猟免許新規取得者の捕獲参入を積極的に推進し、県内全域での捕獲頭数を底上げ

【H22:78,655千円→H23:115,080千円】

拡充 狩猟期外でも捕獲を可能に(予察計画の作成)

被害発生後の捕獲が原則である有害鳥獣捕獲を、市町村が予察計画を作成することで、被害予防のための捕獲が可能に

(予察計画作成等の場合の補助率:1/2→2/3)

【H22:27,600千円→H23:65,134千円】

NEW 新たな技術の導入

落とし網タイプの大型わなを、高知の急峻な地形でも活用可能なものへと改良し、活用を促進

【2,000千円】

◀守りを固める▶有害鳥獣から財産を守る

拡充 防護柵等の購入に対する積極的な支援

- ・有害鳥獣被害防止のための防護柵購入(補助率1/3→1/2)
【H22:9,400千円→H23:15,000千円】
- ・ニホンジカの被害防止のための防護柵購入
(予察計画作成等の場合の補助率1/2→2/3)
【H22:500千円→H23:3,333千円】
- ・鳥獣被害防止総合対策交付金(国庫補助)予算額倍増
【H22:41,570千円→H23:80,757千円】

ニホンジカ 年間捕獲計画 目標:3万頭

※増加を止め、農林業被害を抑制できる生息密度とするための必要捕獲頭数

中山間地域において、県民の安全・安心をしっかりと守る。

◀確実な予防▶有害鳥獣対策全体の推進

拡充 総合的な有害鳥獣捕獲の推進

イノシシ、サル、カラスなど、シカ以外の有害鳥獣についても捕獲対策を拡充する。(補助率1/3→1/2)

【H22:7,600千円→H23:19,500千円】

香美市シカ個体数調整事業の実施報告等について

高知県香美市役所林政課

1. 平成22年度事業(予算63万円)

環境省より捕獲許可を受け、香美猟友会の狩猟者(59名—全て銃器)の協力の下、2月22日までに3度実施している。捕獲許可範囲は香美市内の剣山山系鳥獣保護区全域であるが、3度とも白髪山以東で行っている。

報償金については、1頭あたり2万円(予算30頭分)で対応している。

12月5日の実施にあたっては、徳島県側5地区猟友会との共同捕獲について、依頼等を行ったが、諸事情により実施できなかったため、高知県側単独で実施した。

なお、3月13日(日)に白髪山以東、3月27日(日)にジルザワ周辺で実施する予定である。

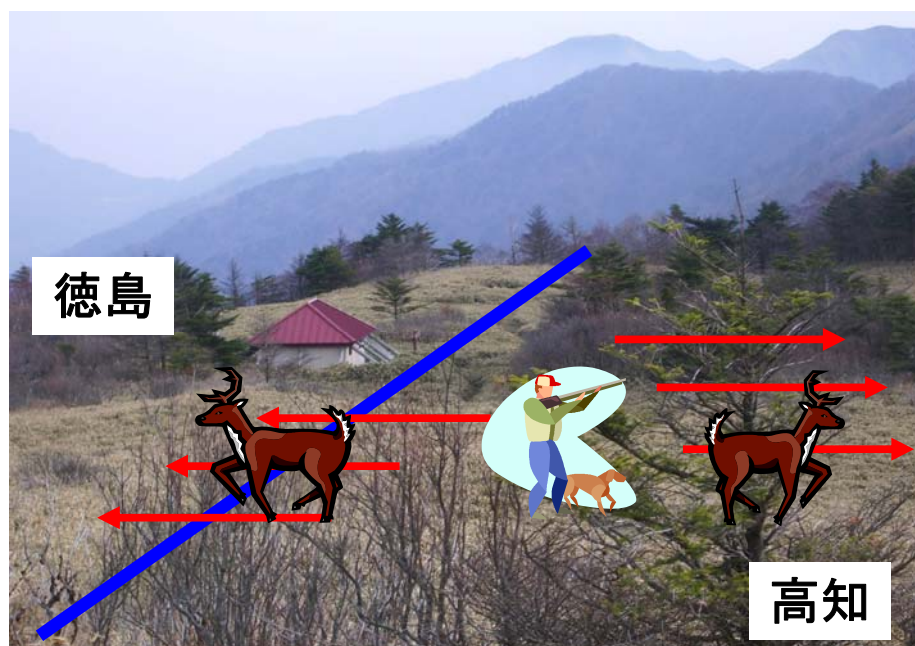
実施日	出務数	捕獲頭数			林班
		オスジカ	メスジカ	合計	
平成22年7月25日	24	3	0	3	54
		5	1	6	55
平成22年12月5日	25	4	1	5	55
平成22年12月19日	20	2	1	3	55
		0	1	1	63
	69	14	4	18	

年度	回数	捕獲頭数		
		オスジカ	メスジカ	合計
平成20年度	6	4	31	35
平成21年度	5	6	14	20
平成22年度	3	14	4	18
	14	24	49	73

(参考)
過去3年の
実施結果

※ 平成20年度、21年度はメスジカの捕獲が中心であったが、現在ではオスジカの方が多くなっている。

2. 捕獲時の状況



白髪避難小屋周辺

県境付近にシカが密集しているが、猟犬を入れるとほとんどのシカが徳島県側に逃げていく。

→ 香美市側の狩猟者は徳島県側で狩猟者登録を行っていないため、逃げられるとただ見ているしかないという状況になっている。

3. 平成23年度事業(予算63万円)

平成23年度も引き続き、環境省から捕獲許可を受けて個体数調整を夏期に1回、冬期に2回、春期に3回実施する予定である。また、徳島県側との共同捕獲についても、引き続き、実施に向けて交渉を継続する。

報償金については、引き続き1頭あたり2万円(予算30頭分)で対応する予定である。

4. その他(平成23年2月22日現在のニホンジカ捕獲頭数)

有害鳥獣捕獲 793頭 (オス 459頭 ・ メス 334頭)

狩猟期間 256頭 (オス 177頭 ・ メス 79頭)